

第2節 釧路川下流域の現状と課題

1 治水の現状と課題

- ・河道断面積: 幣舞橋から別保川合流点の区間は、洪水の流下に必要とする断面が小さいため、洪水時の水位上昇により氾濫の危険性がある。

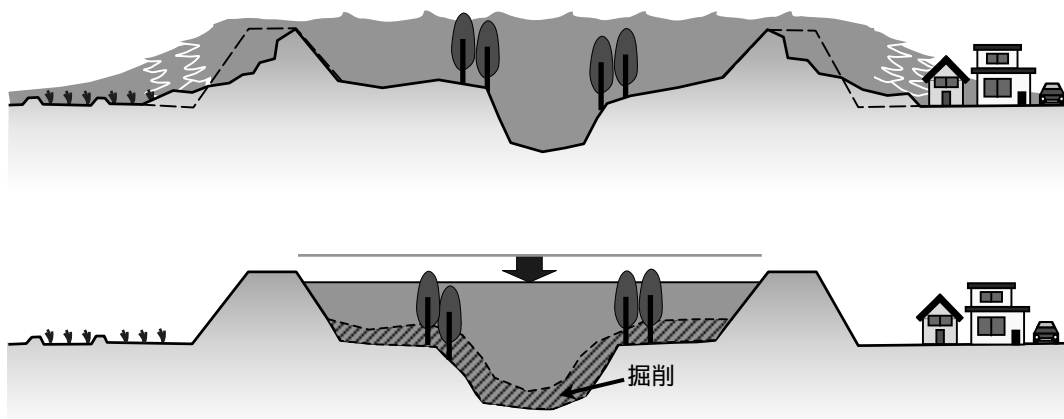


図 1-2 河道断面不足による氾濫の概念

- ・堤防: 幣舞橋から上流は堤防が未整備の区間であり、洪水や高潮、津波の水位上昇により背後地に溢水する危険性がある



写真 1-6 堤防未整備による溢水の状況(H6.2.22 幣舞橋上流左岸)

- ・河岸浸食:幣舞橋から水面貯木場の区間は航路であり、これを保持する護岸が設置されているが、施設の老朽化のため、流水や干満の影響により一部河岸が浸食されている。



写真 1-7 河岸の浸食状況(JR 橋上流左岸)

- ・橋梁: JR 橋及び雪裡橋において、洪水流のスムーズな流下のために定められた規格に準拠していないため、洪水時の水位上昇による氾濫の危険性がある。



写真 1-8 橋梁による流下阻害と橋梁決壊

※平成 12 年 改定 解説・河川管理施設等構造令(発行; 社団法人 日本河川協会)

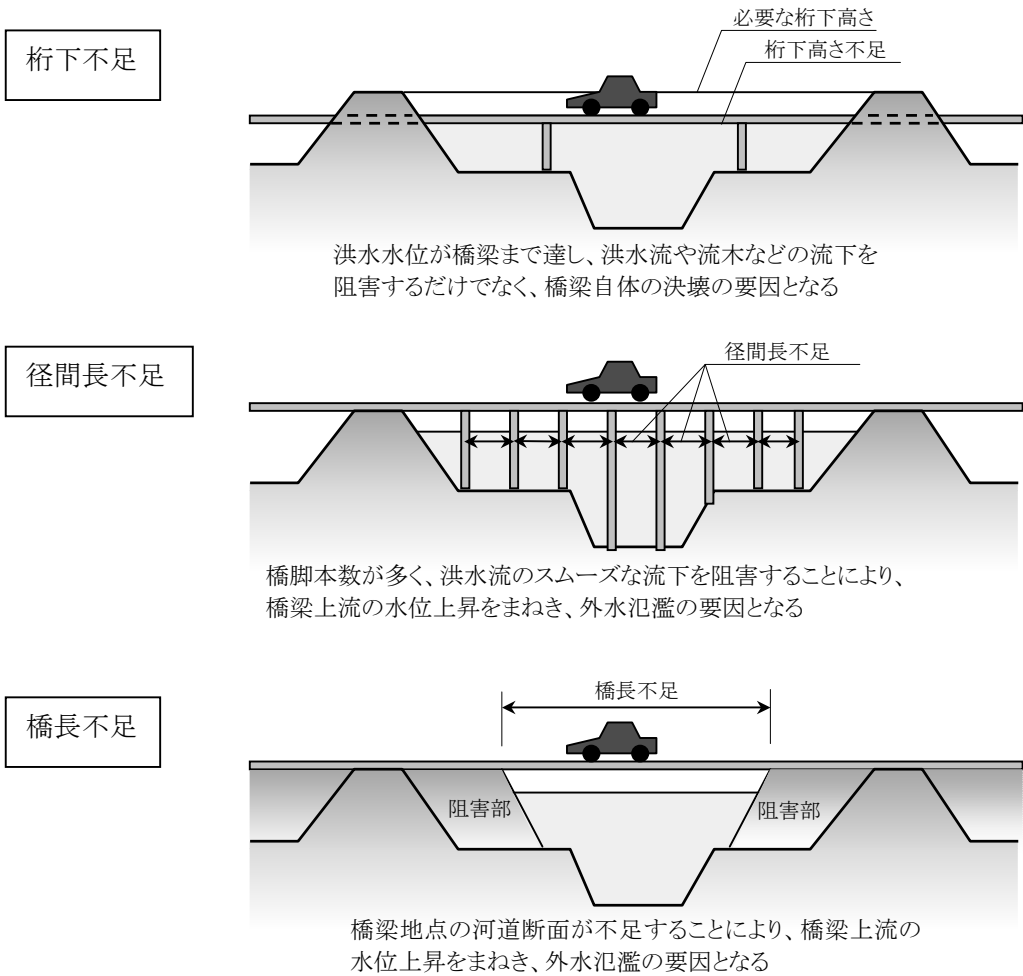


図 1-3 洪水流の流下阻害をきたす橋梁の分類



写真 1-9 流下能力上問題となる橋梁箇所

2 河川利用及び河川環境の現状と課題

・生物の生息・生育環境の維持

釧路川下流域の生活環境項目における類型指定は、河口から岩保木水門の区間はE類型となっており、それを満足している状況にある。また流況としては河川の勾配が緩く、河口から遠矢川合流点の区間は潮の干満の影響を受けている。そのため河道内に干潟が形成されている部分が多く見られる。この干潟は、動植物の生育・生息環境として良好なものとなっており、その保全を考慮していくことが必要となっている。



写真 1-10 JR 橋より上流左岸より上流の干潟の状況

・水利用及び河川空間の活用

釧路川下流域の取水状況としては、別保川の支川サンタクンベ川とオピラシケ川で簡易水道用として各1箇所取水利用されている。

また、釧路川下流域の河口から水面貯木場の区間は舟運利用されているほか、特に市街地区間は、住民の利用に関して非常にアクセス性の高いという特性を持っており、河川周辺を会場として、「くしろ霧フェスティバル」など数多くのイベントが開催されている。しかし従来の環境においては、河岸に港湾施設等が立地し、人が容易に河川に近づくことのできない状況となっている。こうした課題の解消を考慮し、新たな河川環境の活用方法を模索することが必要となっている。



写真 1-11 幣舞橋上流左岸より下流の状況 (平成 10 年撮影)

第2章 河川整備計画の目標に関する事項

釧路川下流域における河川整備の基本方針としては、河川改修、水害発生状況、河川利用の現状、河川環境の保全を考慮し、関係機関の各種事業等との調整を図り、整備に当たっての目標を明確にして、河川環境に配慮した治水、利水対策を促進する。

第1節 計画対象区間

河川整備計画を策定する上で優先的に整備を実施する河川区間は、1市1町を貫流する釧路川下流域のうち、人口及び資産の集中する幣舞橋から旧雪裡川合流点のL=5.4kmである。

第2節 計画対象期間

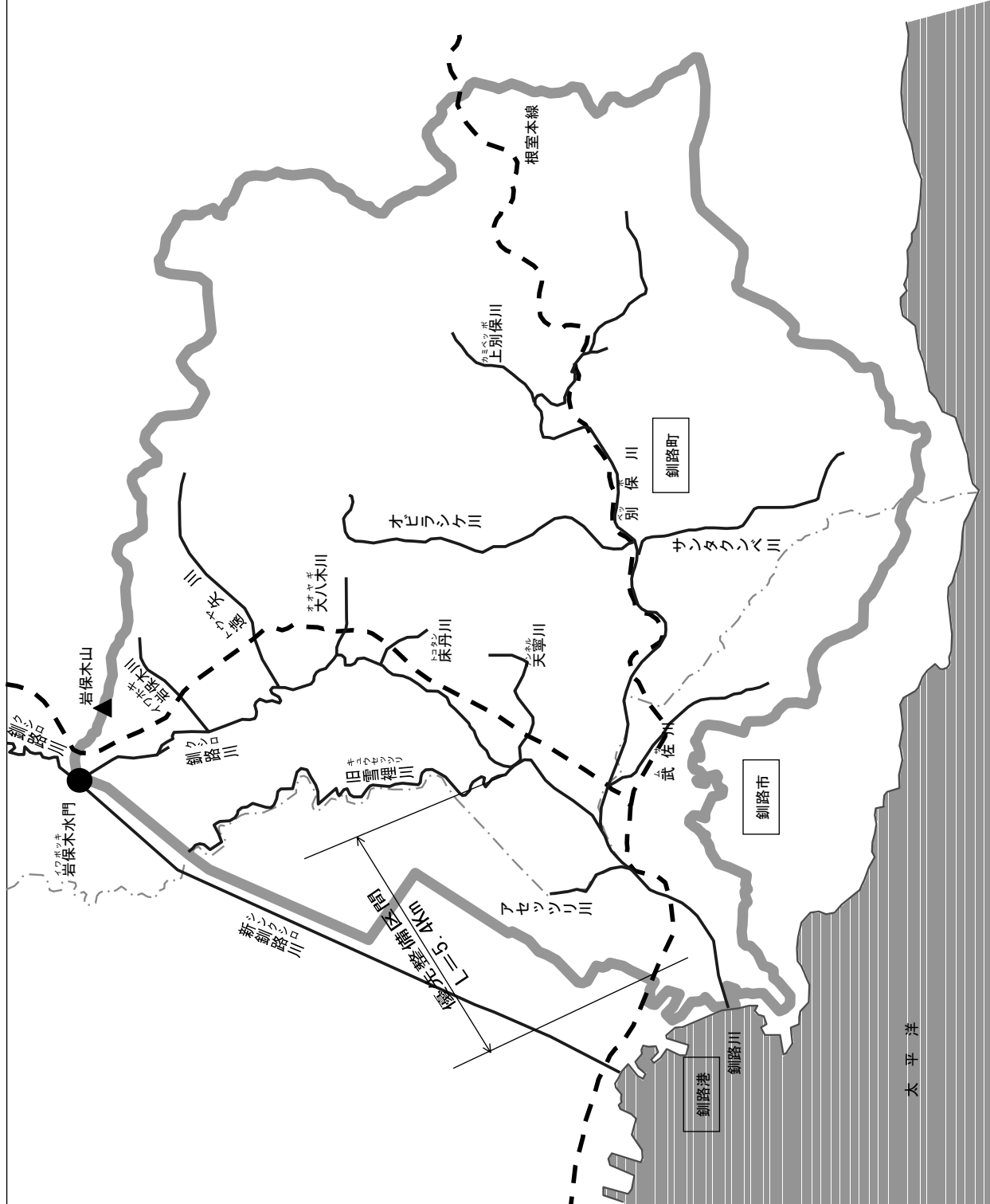
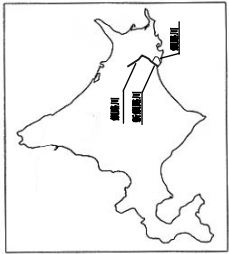
河川整備計画は、河川整備の段階的な対応として、当面20年程度の間河川整備の目標を明確にし、河川工事、河川の維持を計画する。本計画は、現時点での流域の社会環境、自然環境及び河川状況に基づき策定するものであり、策定後のこれらの状況の変化や新たな知見、技術の進捗等の変化により、必要に応じて見直しを行うものとする。

図 2-1 釧路川下流域流域図

S=1:75,000

凡 例

- 流域界(釧路川下流域)
- - - 市町村界
- 主な河川



第3節 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項

優先整備区間については洪水の発生状況、氾濫区域内の資産の状況、想定される被害の実態及び現況の流下能力を踏まえて優先的に河川整備を行い、洪水・高潮等による災害の防止、軽減を図る。主な整備内容としては堤防の新設、護岸の新設と河道の掘削を行う。

・基本高水・計画対象流量の目標

優先整備区間には人口・資産が集中し、戦前に行われた河床の浚渫以外に改修は行われていない。また過去10年来、特に下流部において高潮等による冠水被害が頻発し、早急な治水対策が必要となっている。

そのため、洪水や高潮の実績を踏まえ、近年における最大雨量をもたらした昭和61年9月の降雨に対する安全度の確保を念頭に置いた河川整備を進め、市街地の資産を防御する計画とする。

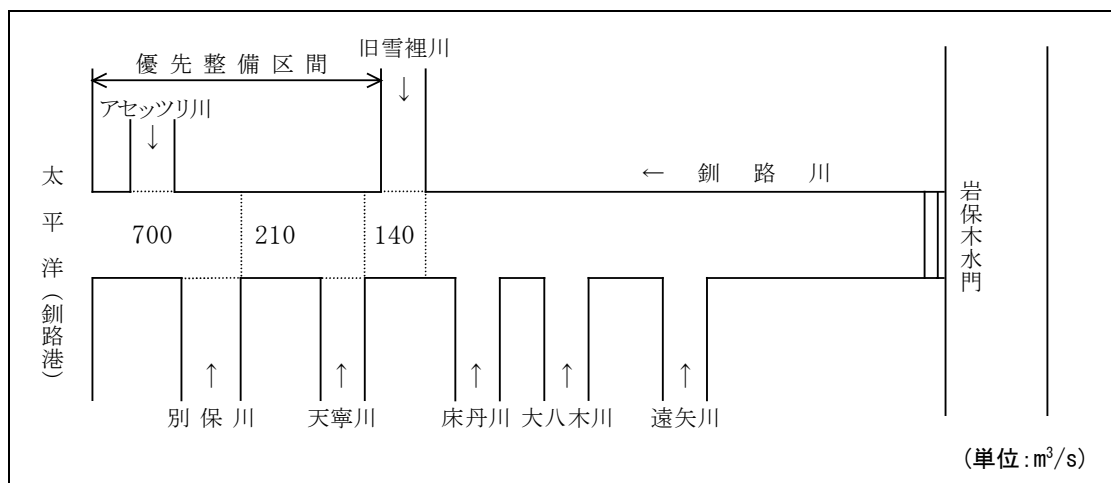


図2-2 基本高水・計画対象流量図

第4節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項 及び河川環境の整備と保全に関する事項

優先整備区間において、取水は行われていないが、潮の干満の影響を直接受けており、水量については維持されている状況にある。

河川空間は水と緑に囲まれた貴重なオープンスペースであり、レクリエーション・スポーツ等の活動の場として住民に安らぎやうるおいを与える一方、震災時の延焼遮断帯等の防災機能、また近年では生態系上貴重な生物の生育・生息空間としての機能として、河川環境に対する地域社会の期待が高まっている。

このため、地域社会の各種要請を調整して河川環境を保全・整備する事が、今日の重要な課題であると考えられる。

今後の整備及び管理に際しては、動植物の保護、水質や景観などの河川環境の保全、人と河川との豊かなふれあいの確保等の配慮に努めるものとする。

その一方で、河口から水面貯木場までの水面が港湾区域に指定されており、漁船の航行や荷捌きが行われている。そのため整備を行うにあたっては、流況や河川の機能について港湾部局と調整を行っていく必要がある。

また JR 橋から上流は、干満の差により干潟が出現し、数多くの底生動物やチドリ等の鳥類の宝庫となっており、動植物への配慮も必要である。

【干潟の保全】

釧路川の汽水域には干満の影響により干潟が出現し、底生動物やそれを求めて飛来する鳥類の宝庫となっている。そのため改修計画を進めるに当たっては、現状の干潟を極力保全するよう、またやむを得ず掘削する場合においても干潟が復元されるよう配慮する。



図 2-3 干潟復元のイメージ
※北海道・釧路市:「旧釧路川ふるさとの川整備計画書」